

COLORS TARO NIGHT

2025
04.12
SATURDAY
OPEN 16:00
CLOSE 20:00

自然豊かな生田緑地の夕闇と静寂の中で
三原色が重なり合い
《母の塔》がカラフルに輝く
一夜限りのスペシャルナイト

三原色を体験する
インスタレーション

当日の半券でお花プレゼント
岡本太郎美術館・日本民家園
かわさき宙(そら)と緑の科学館

開館・営業時間延長
岡本太郎美術館
カフェテリア TARO

PERFORMANCE:

仙石彬人 AKITO SENGOKU
LIQUID LIGHTING / VISUALS

DOGU (from Colloid)
MUSIC / READING

石坂亥士 Gaishi Ishizaka
Kagura Drum : MUSIC

サミエル Sami Elu
Chopstick Piano / Pixiechord : MUSIC

藤平真梨 Mari Fujihira
エリナ Erina

rio_doiji & なない Nanai
DANCE

DJ:
RYO NAKAHARA
(RANA-MUSICA RECORD STORE)

BAR TERROIR:
日本酒 / Gin / Craft beer
Wine / Coffee / 地場野菜料理

SET DECORATORS:
大中小道具 宮本

SOUNDSCAPE DESIGN:
WHITELIGHT

2025年04月12日[土]

開場 16:00 終了 20:00 荒天中止
リキッドライティングの投影は日没後18:30ごろ開始予定

観覧無料

生田緑地 岡本太郎美術館
《母の塔》前広場・西口広場
Taro Okamoto Museum of Art, Kawasaki

Photographer: AKAZAWA KOH

主催: 川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会
(川崎市役所建設緑政局緑化フェア推進室)

協力: 川崎市岡本太郎美術館 BOGOS Records
かわさき宙(そら)と緑の科学館 川崎市立日本民家園

問い合わせ: Tribute Kawasaki 合弁会社 トビラ株式会社 (044-400-1069)



制作 / 協力

COLORS TARO NIGHT

自然豊かな生田緑地の夕闇と静寂の中で 三原色が重なり合い
《母の塔》がカラフルに輝く 一夜限りのスペシャルナイト

日が暮れて風が吹き始めるころ、広大な生田緑地に私たちは足を踏み入れる。背の高いメタセコイアの林を抜けて、美術館へ向かう。暗がりの中、木々がざわめく。遠くからか近くからか、ひそやかなささやきが聞こえ、私たちは少しの緊張と、感じたことのない高揚を胸に、仄かな明かりを頼りに進んでいく……。暗い道を抜けた先には、大きな芝生の広場と、森を背負った《母の塔》がそびえ立ち、息を呑む。

高さ30mの《母の塔》は岡本太郎美術館のシンボルタワー。「大地に深く根ざした巨木のたくましさ」と「ゆたかでふくよかな母のやさしさ」、「天空に向かって燃えさがる永遠の生命」をイメージしている。タローホワイトという真珠色のクラッシュ・タイルを使った外装は、季節や時間の変化でゆっくりと表情を変え微妙な揺らぎや光をはなち輝く。

大地から生えてきたような《母の塔》の、日暮れから夜の変化を眺める。夜の帳がおりると、私たちの五感は、より研ぎ澄まされる。風が頬を撫でて通り過ぎ、湿気をはらんだ芝生の手触りを感じる。そして、小さな音と光から、やがて極彩色の映像や音楽が《母の塔》を満たしていくのだった。会場内には、名手たちが手掛ける飲食や物販、ワークショップも並ぶ。花や植物をトリビュートした小さくも充実したマルシェを楽しみ、広大な芝生に寝転ぶ。

大きな空、《母の塔》の輝き、木々が奏でる音。私たちは、花や植物や昆虫と同じ大地から生まれ、暮らし、大地に還るのだ。そんな実感に満たされる、不思議な一夜だった……。

当日の半券提示で一輪花プレゼント

生田緑地内施設3館の「入館・入園券」の半券(4/12付)を会場内情報コーナーテントにてご提示いただいた方にカラフルな一輪花を差し上げます【先着100名様】

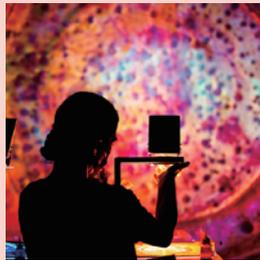
三原色を体験するインスタレーション

私たちが目に見る色は3つの色の重なりでできている？
会場内の床や壁、階段に現れた三原色で体験してみよう！

ナイトミュージアム・ナイトカフェ

イベント当日は美術館とカフェの開館・営業時間を延長します
岡本太郎の作品に触れてよりTARO NIGHTを楽しもう
岡本太郎美術館 18:30まで/カフェテリアTARO 20:00まで

《母の塔》に浮かびあがる光の絵 × 音楽と朗読によるコラボレーション START 18:30



仙石彬人 AKITO SENGOKU LIQUID LIGHTING/VISUALS

2004年より「時間に絵を描く」をテーマに、リキッドライティングの技法を用いたライブ・ヴィジュアル・パフォーマンス"TIME PAINTING"をはじめ。楽器を演奏するかのように3台のOHPを同時に操りながら紡がれる光の絵は、絶えず変化し続け2度と同じにはならないその場限りの物語を描く。LIVEという表現方法にこだわり、あらゆるジャンルのミュージシャンやダンサー、アーティストとのコラボレーションを活動の場としている。



DOGU (from Colloid) MUSIC/READING

言葉とメロディの美しさをポリリズムやポリフォニーを用いて歌い上げる、京都発のネオ・トライバルミュージックユニット"Colloid"から、メインボーカルの下村よう子、にしもとひろこ、作曲家でありヴァイオリン弾きのイガキアキコの3人を中心に、様々な演者が流動的に出入りする"Colloid"スピノフのメンバー伸縮自在ユニット。今回のパフォーマンスには、カナミネケイタロウ (contrabass) ワタンベ (drums) を迎え、力強い楽曲と朗読と共に、場に合わせた即興性をもって独自の世界観を展開する。

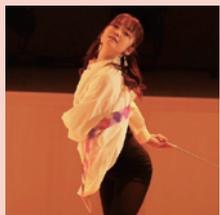
《母の塔》を舞台に繰り広げられる 夜をいどるライブパフォーマンス START 17:00

石坂亥士 Gaishi Ishizaka

Kagura Drum : MUSIC



1971年、群馬県桐生市生まれ。神楽太鼓奏者・打楽器奏者として神社、クラブ、即興演奏、演劇、舞踏といった国内外を問わず様々なシーンに活動の場を広げている。母の郷里の青森で幼少の頃より様々な伝統芸能をはじめ、イタコの儀式などに触れた事が自身の音の原風景となっている。そのスタイルは、神楽太鼓を軸に、世界各地の民族打楽器を自由に操る稀なスタイルで、ミルフォード・グレイヴスや、師匠である土取利行氏の影響を強く受けている。



エリナ Erina

DANCE

幼少期よりモダンダンスを始める。多数の全国舞踊コンクールにて受賞。劇団ひまわりにも所属しミュージカル、ダンス公演に出演。日本女子体育大学附属二階堂高等学校ダンス部卒業。その後多数振付等講師として活動し、2020年1月自身主催の「RINA 新体操 × ダンス」を設立。



rio_doiji

DANCE

幼い頃から自らの感覚や感性をもとに踊りや言葉、絵、写真など多様な手法を通じて表現を続ける。現在は踊りを通じて自身の感覚を表現し、新たな可能性に挑み続ける。

藤平真梨 Mari Fujihira

DANCE



バレエダンサーを経てコンテンポラリーダンサーとして世界20か国にてサイトスペシフィックなパフォーマンスを行う。SAI DANCE FESTIVAL COMPETITION 優秀作品賞(ソロ部門1位)受賞。俳優としてアメリカンエクスプレス CM、ROPÉ モデルを務めるなど幅広く表現活動を行う。自身が踊る以外にも「人の数だけ踊りがある」をモットーにダンスサンプルを創立し、学校や企業へのアウトリーチ活動や、舞台公演にて総合演出を手掛ける。



サミエル Sami Elu

MUSIC

廃材と割り箸、ピアノ線を使って、世界に1つだけの木製弦楽器「割り箸ピアノ(幻ピアノ)」を自ら製作。琴に似たテーブルトップ式のピアノを両手で弾きながら、足元では廃材のドラムキットでリズムを奏でる。作曲とライブだけでなく、楽器作りワークショップ、参加型オーケストラ指揮など、多彩なコラボレーションも行っている。流浪の音職人が自然と調和した唯一無二のサウンドを奏でる。



なない Nanai

DANCE

幼い頃にダンスに魅了され、コンテストをはじめ、さまざまな舞台で経験を積む。自身の身体能力を活かした力強くも繊細な動きで独自の表現を発揮する。

全国都市緑化かわさきフェア
3月22日[土]~4月13日[日]

会場:
富士見公園・等々力緑地
生田緑地 ほか

Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市

COLORS
FUTURE!
ACTIONS
KAWASAKI 100TH

Green For All
KAWASAKI
2024

